

食事の席は列あり人員數多あれど頭立とるを此所の役人某本府警衛の號令官某スエーデンベイナクトベスセルロイテナントコロ子ルヤクソン等あり日本使節を右諸役及び來會せる貴婦人等と殊更に懇親す右食事畢て後凡第八時頃旅館に歸りしが其夜を更るまで窓より出て旅館の前後に雜沓する諸人の様を詠め居れり

二十七日

我六月朔日

よと日本使節國用傳信機の場所へ往けり

此日を國事宰相局の屬官スターリンクの案内あり右見物すみてトレスリンフ氏の石版所へ往きしよ此所にて使節馳走の爲に其眼前にて種々彩色の画を擲出せり日本人之

を見て頗る感服し色々の質問を爲し大に満足の色を顯して此所を立出で次よコーエー氏の砂糖製造所を訪ひ夫より盲人館を一覽し第一時頃及ひ又其所を出て博物館へ往きしよ此所にも亦夥しき待請の設ありて費用をも惜まず煩勞をも憚ららず客殿より諸所へ至るまで飾付は美を盡しとるを目を眩らすむろりあり其他動物學科の園庭の盛よして我都の光耀を添ふるよ足れるよと爰に論述するよと及むさるべし

晚景よおよひ日本使節且遙園の夜遊よ出會せしが其内數人もスピケルスタラートといへる町のイブスヌーク氏

を訪ひ其真影所を一覽し自分の真影をも取らしめたり夜遊をスラム氏の設け尤も見事として其燈明就中美麗かり惜むらくも此時俄に暴雨降出せしより諸人甚と難澁し來會せる婦人等よも衣裳の爲に殊に大なる故障あり

二十八日^{我六月}二日よも日本使節第十時頃より乗出し當町の役人及び其余數人よも誘われ當時普請最中なる百工館の周圍を乘廻し夫より市中の幼院及びタンホウテン氏の倉を順覽し就中同氏所藏の日本漢土の古物を見て感服し夫より諸家の店よも立寄りし其内最も重なる店をハハフルマテ氏ラス氏ステンデルモーレン氏シンケル氏ハルマン氏

等あり第一時半頃よも會議所よも至り其會議を爲す坐鋪よも小休の馳走あり其後離別を告るとして安特堤逗留中厚き款待を受け至極満足の一し丁寧なる挨拶を述べ凡第三時半頃よも海牙の道よも旅立ちぬ

和蘭王よも謁見の事

第七月一日^{我六月五日}晝後第五時半頃よも日本使節儀式の行列よも國王の館よも出仕せり此行列を騎兵一隊と五輛の官車あり此五輛の内四輛を馬二匹宛よも率き真中の一輛を四匹の馬よも率するが是れ即ち第一等使節の乗られしあり其他乗車の入口よもといつれも若黨一人宛扣居り騎兵を右

乗車の前後左右を圍みて守護せしかり途中通行の間をホ
ールンと名くる樂器と喇叭とを吹立つ是を軍禮と用ふる
音樂よて極めて勇まじき調子かり此時使節を誘引せしを
セルモニーマーストルといふ役人あり此役人事濟て後ベ
レフリーと號くる旅館へ使節の歸らるる時よもまよ送り行
きより使節程おく王の館よ到着ありしよ館の内よをグレ
ナジールと號くる軍上警固の爲よ大隊を備へ使節の入來
を待受け軍法の儀式を以て尊恭の禮を為せり此時外國事
務宰相出迎ひ誘引して國王の前よ出て謁見の禮を行むし
む右謁見の禮凡半時計もろこれり扱日本使節の國王よ言

上せし語を翻譯すれむ其大意左の如し

謹白

私共 大君殿下の大命を蒙り今日大王の殿下よ拜謁
し奉るる感激の至よ堪へず候抑條約取結ひ候てより
以來兩國の交際日よ親密よ成行き候之よ依て此度
大君殿下親筆の書簡を大王よ呈して聊微衷を表し且
條約の取極を改定せんと欲するを私共よ命し取計
らむしめ候其他私共謹んで大王の爲よ幸福を祈り貴國
萬民の安全を希ひ申候

國王の返答大意左の如し

予今 貴國大君殿下の好意を足下より承知いよ大
慶の至よ候是よりも 大君殿下の幸福を祈り貴國の
泰平を希ひ候殊よ日本と和蘭の交際を條約の定よ基
き舊來の好みを繼ぎ此末益張大親密からんを偏よ
期望いよ候

此時當所并よ諸所より此大禮を見物せんとして其群集せよ
と大方おらず然るよ此日天氣好うらざりよを實よ殘念お
る事おりき

二日我六月六日 日本使節王妃世子公達姫君フレデリキ君よ見
參す

日本使節國王よ贈物として立派なる寶刀を獻ず其柄を寶
石よて飾れり世子よ獻せよ太刀も畧同様あり

六日我六月十日 國王王妃日本使節を馳走の爲よトホイステ

ンボスと號くる宮殿よ於て午時の大饗を賜ふ其翌日公達
姫君もまよトホイステパウと號くる宮殿よて晝食を賜
ふ

デルフト府遊覽の事

第七月三日我六月七日 日本使節同敷の内十四人よて海牙の便
船よ乗りデルフト府よ来よれり第十時頃よハークポール
トと號くる都門よ至りければ當地の役人出迎ひ民兵の音

樂よて誘引し用意の車よ打乗せ先つ國用の細工所よ連れ
行き夫より少し府城を離れ彈丸の鑄立場を一覽し第一時
頃よ府城よ歸り會議所よて馳走あり其間門前よて民兵の
音樂と砲隊の音樂と代るくよ奏しとり第二時頃小筒打
立所よ行き夫より耶蘇教の新寺古寺を見物す此寺くも世
人の兼て知りし通り古來有名ある人物の像を飾りし處を
り右見物畢て大學校よ臻りしよ學士の面々此時既よ待受
としてプリンセンサールといふ客殿の中よ集り居れり日
本使節の入來を見て其内よりケウレナールといへる役人
立出て使節よ向ひ貴國と和蘭との交際を年歴淺からず今

日始めて大使よ會するを得て學校の面目一方ならず侯
學校中の事よ付ては何事よよらず尋ねたまふとあらむ答
へ申べし且此後日本國の學士と親密ある交を結ひ學問上
の事を成るべきよけ雙方の論説を交易するを得るよ至
らむ學校の喜び何事よ之よ過きずとぞいひける
日本國の通辨官右學校役人の口上を譯して日本使節よ通
せしよ使節大よ喜び同し通辨官よ命し親切友愛の意を蘭
語を以て返答し其後學校役人和蘭譯司 ドレンセル 及ひ其他
の大小學士の案内よ從ひ諸雛形類を納めしる所よ入り諸
器物を見て大よ感服せり

右見物は姑く手間取りて後學校役人ケウレナール氏の宅
に招かれ其所より少く休息す此時ケウレナール氏の内室の
招きよて數多の婦人寄添へり使節學校を出る時多人數の
生徒等一列に並び音樂を奏して尊恭の禮を爲せり其後イ
ヘウケンスヘルト氏の毛氈製造所及びビシラーズ氏の羅紗
織場を一覽す右通行の間はドンクルモルリス氏の宅にも
立寄り最後は今日諸所を案内する當地役人の宅にも罷
越し夫より暇を告げ車に乗り第六時頃海牙に歸れり
此日天氣惡く雨降り續けされど何れの所にも夥しく群
集し日本使節に會釋し中にも花を採りて贈る者あり

公館官署の類も勿論市中の家々にも所々私蘭國旗と日
本國旗とを飾り置けり

來丁府遊覽の事

使節の同勢此度も十六人にて響應役數人の案内に従ひ第
十時頃來丁に來れり其ちテポールトと號する都門の少
し先よて俗役并軍役懸りの諸人及び當所の役人ドチブー
ルシーゲンベーク提役セウヒフレフトマヨールイハムテ
ルブルツヘン當所警固の號令官等出迎ひ市中にも所々
日本並和蘭の國旗を立て列らぬ航海學校の誓古人と土手
よて列を立て尊恭の禮を爲す使節を夫より直に博物館に

趣き其役人の案内にて色々見物して感心せし其内一二
人早急の際にて諸事細うに見るに能はずとて窃に歎せし
由かり此時天氣快晴に及びけれど乗物の戸を開き更に遊
行すべしとて右博物館を出て夫より大學校に到る此處に
ても大學士ブルレイキといへる人出迎ひ日本使節と問答
し其後右大學士の誘引にて學校中を見分し本草局觀象臺
窮理局舎密解剖局に到り學士の指示せる品物及び證據を
見せしる實驗等日本人仰天せざるをみし夫よりハハイ氏
アレホーレ氏に至り呉紹服連及びボレミーン類の工局
を一見す此處にも兼て待受け種々の仕事を爲せし一と

心を留て見物せり夫より會議所に至り當所村役人民兵の
號令官野戰砲隊の號令官等と面會す夫より猶進みて國用
の大鍛冶局に至る此局を先年日本政府の頼によりて大鍛
冶所の形を造り贈りし所也此處にては當工局附の人員は
誘をれ旗幟と色々物の物にて飾りしる客室を通り厚く款待
せられ夫より局中所の仕事場并に倉等を順覽し就中大
小圓柱形の仕懸にて古鐵を直し桿金又を角金と爲す所を
見て殊の外感心し其外鐵軸錨鏈等大小諸種の製造を一覽
し其後四十一ストレーブ我一分餘の大なる鐵の大鏈を水仕
懸のメ木にて様し此メ木の勢力を示さんとして態々其大鏈

を引切りよりさすぐ伶俐ある日本人も之よを大に仰天せり
最後はカラント氏ソーニ氏の羅紗織場は臻る此處にて
も使節を款待あり色々の所作は目を驚かせり以上處々順
覽の間諸貴人婦人等東方の異人を見んとて來りし者多し
此中ハ花を使節に贈る者も儘ありける

多分の遊覽にて使節少し疲れし頃當所役人の宅に誘われ
晝食の馳走あり其間民兵の音樂絶ゆるとあり第八時半頃
に至り馳走の厚きを謝し右役人の宅を出て都門を出る頃
は航海學校の稽古人恭禮を爲せり總して此使節の來りし
所及び往來の道筋等見物の群集せし事を云までもあき事

あり

雜記

二十五日は日本使節安特堤に來りし時其附屬の日本人等
吹聴ありしへエンノードに至り和蘭蒸氣船仲間にて建置
する普請場を見物せり其節右仲間頭取の案内にて始終日
細工場に留り夕方より及びて海牙に歸れり又名高き鹿特堤
の病院へも右の如く忍みて來り終日其處に居れり又ソイ
デルビルフの醫學所へも日本人七名にて屢來遊し始めに
諸器械を熟覽し其後解剖稽古所に至り色々綿密なる稽古
をあり其學び得たる事を直し手帳に書留めたり其後日本

人の伶俐よりて物毎に巧者あるに駭きしとありヘンデル
クスといへる人日本人に眼科療治の法を爲し見せし日
本醫師等其習ひしを爲し試みんといひて種々の六ヶ敷手
術を精密敏捷に爲し遂げしり此時見物の群集夥しりり
が何れも殊の外に仰天す又此度日本人と同道せし人より
オンデロス子イといへる勝れしる學士あり年齢を僅に二
十五歳おれど胸に數多勲爵の表章を懸し人にて東洋及
び亞墨利加の事を講究する任を受け嘗て東洋言語を學ぶ
に善き書籍を著せり此人今度佛蘭西政府の命を蒙り
日本人に陪從し日本人歐羅巴諸國を周行する間之に同伴

する由あり

又日本人等程おくソイデルビルフは三度目の遊覽をなす
べきより風聞あり

日本同勢の内は安持堤は行らざりし者ありて二十七日は
新兵民兵等の訓練を見物に來されり右の日本人は訓練の
理解並業前等少し教へられど彼等其跡にて大砲一挺を遣
ひしが諸事能く心得し其手続き其見事ありワールズドル
フといふ所の原にて訓練ありし節にも彼等來りて鐵砲を
取扱ひまゝ其手際をあらわしり

まゝ日本使節の内三人連よてイシオースコールといへ

る初心ある者を教授する所は行きとり不意の事よて教頭并役人等兼て用意も爲さるりうど折角の珍客は萬事を明よ見せしむるは差支へたる事ふりり日本人凡一時むりりの間諸事熟覽し自ら色々の圖取あどを爲せり彼等殊よ小兒を教導する人の辛防よきよ感心し且其制度の適當したる事と人心の歸服し居るは駭けり

國王より命ぜられし日本使節饗應役の者より來因河筋の堤方奉行へ掛合ひ日本使節を迎へ來因河筋の普請の仕様を見せ諸事委く説き聞かすべき旨所望ありとり右よ付近くの内よ日限をさどめ日本使節を誘ひへし子ンピルフの

立場よりリッセを越し亞零湖の干瀉の内を通りレーフワトルよ赴き此處よて干瀉支配の者使節を迎へ馳走の爲よ大仕懸ある機關の運動あるべし夫よりノールドヅーキを経てカト空イキよ赴き此處よて使節よ食事を進め水門を見せ諸事を説き聞かせ相濟て後使節を海牙よ歸らしむべし日本人烏特立よ來るべき時日をいまだ相分らずと雖此地逗留中よ何れ一度セイスト及びヂリイベルヘンへも罷越し其節よセイストの陣所をも見物すべし此事既よ風聞ありて夫よ待受の用意せり其外時日よ猶豫あらをフレース空イキの水門をも見物すべきよあり